巡回企画展「日本のタイル 100 年」開催記念

シンポジウム

「建築とタイル—双方向の対話は可能か」

建物の壁面や床面を覆う陶磁器製の薄板を、「タイル」と呼ぶようになって、2022 年で 100 年となります。 即ち「タイル」は、 建築物に使用されることが前提となっているのです。 この機会に、 近現代の建築に深くかかわってこられた方々をお招きして、 建築とタイルについて交流するシンポジウムを開催します。

手がかりとして、 かつて建築史の立場から大阪歴史博物館学芸員としてタイルを真摯に見つめた故・酒井一光氏の研究に着目し、 遺稿集の編集発行に携わった方々にお声がけしました。本展の企画者と共に、これまで建築家がどのようにタイルを使ってきたのか、 どのような使われ方が評価されてきたのかを振り返り、 これからのタイルの在り方や展望を語り合います。

2022

11.23（水・祝）

時間 14:00〜16:00（予定）

場所 笠原中央公民館

（モザイクタイルミュージアムの隣）

お申込み方法

メールまたは FAX で、 下記の情報をお知らせください。

※開館中は、 お電話でも可能です。

①お名前、②ご連絡先、③ご来場人数

参加費 **無料**

（モザイクタイルミュージアムの展示をご覧になる場合には観覧券が必要です）

定員 50 人

（後日、動画配信も計画中）

お問合せ・お申込先

MOSAIC TILE MUSEUM Tajimi

多治見市モザイクタイルミュージアム

e-mail : info@mosaictile-museum.jp

FAX : 0572-43-5114 TEL : 0572-43-5101

〒507-0901 岐阜県多治見市笠原町 2082-5

※新型コロナウイルスの状況等に応じて変更する場合があります。

出演者（五十音順）

笠原一人

建築史家。 京都工芸繊維大学助教。 専攻は近代建築史、 建築保存再生論。 リビングヘリテージデザイン（旧住宅遺産トラスト関西）理事。 DOCOMOMO Japan 理事。 著書に『村野藤吾の建築』『関西のモダニズム建築』ほか。

後藤泰男

1985 年 INAX（現 LIXIL）入社。 ものづくり工房のスタッフとして INAX ライブミュージアムの企画段階から携わり、 現在同館主任学芸員。『水と風と光のタイル』、『建築の皮膚と体温』（LIXIL 出版）の共同著者。

倉方俊輔

建築史家。 大阪公立大学教授。 日本近現代の建築史の研究と並行して、 建築の価値を社会に広く伝える活動を行っている。 著書に『京都 近現代建築ものがたり』『神戸・大阪・京都レトロ建築さんぽ』など。

髙岡伸一

建築家。 近畿大学建築学部准教授。 生きた建築ミュージアム大阪実行委員会事務局長。BMC メンバー。 主な作品に、大正時代の銀行をリノベーションした『井池繊維会館』、木造長屋を再生した『北浜長屋』などがある。